

弥生観望会のお誘い

あなたは本郷キャンパスに天体観測用のドームがあるのを知っていますか？

高梨 直紘 (天文学専攻 修士課程2年)

本郷キャンパス浅野地区にある理学部3号館の屋上に、理学部附属30cm望遠鏡があります。過去には研究用に使われていた時期もありましたが、今ではその役割を終え、静かに上野の町並みを見下ろしています。引退したとはいえ、この望遠鏡まだまだ捨てたものではありません。私たちが天体を肉眼で楽しむには十分な能力を備えています。せっかくの望遠鏡を使わないのはもったいないと、理学部に所属する学生が集まって天体観望会を行うことになりました。去る1月28日に第1回目

の観望会を実施しましたので、まずはその報告をさせていただきます。

観望会参加者の皆さんには、まず理学部3号館の教室に集まって、太陽系シミュレータを用いてこれから見る天体の解説などを受けていただきました。ここでは、NASAの探査機が到着したばかりで話題となっていた火星の解説なども行いました。その後屋上に移動し、望遠鏡を使っての観望会となりました。事前の広報不足ということもあり、こ

の日集まってくれたのは主に同じ棟に入っている生物化学専攻や地球惑星科学専攻の学生さんで、人数はおよそ40人強。惑星に関しては私たち天文学専攻よりもほど詳しい方のいる中で、冷や冷やの解説でした。なんとか全員の方に生の金星・月・土星を見ていただき、お開きとなりました。参加者の皆さんにはアンケートを採らせていただきましたが、全体的に好評だったようです。

このように、本観望会では前半に解説を、後半に観望をという形



観望会の様子

望遠鏡を覗く順番を待っている様子。ドームの中では望遠鏡を用いて土星を、ドームの外では星空解説が行われた。

をとっています。解説では、一般的な星空解説（これは厳密には現代天文学ではありません、例えば星座の探し方や目で見える天体の名称などの解説などです）と最新の天文学のトピックスを入れるようにしています。これは、せっかく理学系で行っている観望会ですらただ星を眺めるだけではなく、少しでも最先端の天文学を持ち帰って頂こうと考えているからです。天文学は、一般の方の理解とその実情が大きく乖離した学問領域の1つであると思います。このギャップを少しでも埋め、多くの方に天文学がなんたるかを理解していただく機会にしたいと考えています。こういった意味で、弥生観望会では普段全く天文学に触れる機会のない他分野の学生さ

ん、例えば文系の学生さんにも参加していただける工夫をしていきたいと考えています。

一方で、この観望会は私たち観望会を主催する側の勉強の場であるとも捉えています。例えば、天文学の話をわかりやすく人前で説明する能力を磨く場として、このような機会はとても有用でしょう。専門外の方に研究領域に関して平易に説明することは、自分の研究の整理という意味でも意義あることだと考えています。ただ参加者の皆さんに話題を提供するだけではなく、私たちの勉強にもなる。このような形で観望会を運営することを目指しています。

弥生観望会に参加できるのは、現在のところ学内生および学内

スタッフです。観望会に参加するためには、当日理学部3号館および安田講堂前に用意する受付にて申し込んでいただければ結構です。雨天の場合は中止ですが、曇天の場合は開催する場合があります。その判断は当日16時の時点で決定され、WEBにて報告されます。事前に下記WEBで情報をチェックしておく、間違いがないでしょう。

東京の夜といえど、捨てたものでもありません。たまには夜空を眺めてみてはいかがでしょうか？

「弥生観望会」WEB

<http://www.ioa.s.u-tokyo.ac.jp/~takanashi/kanbou/>

生物情報科学学部教育特別プログラム

修了証授与式 ―第一期修了生の誕生―

南 康文（生物情報科学学部教育特別プログラム）

生物情報科学・バイオインフォマティクスの人材育成が学界及び産業界から求められている状況を踏まえ、それに応えるには、バイオインフォマティクス及びその基礎である生命科学と情報科学の基本的知識を学部学生にこそ身に付

けさせるべきであるという考えに基づき、生物情報科学学部教育特別プログラムは、平成13年10月に文部科学省科学技術振興調整費（新興分野人材養成）により理学部に設立されました。平成14年度から実質的な教育活動が始

まり、まず、夏休みを利用して3年相当科目（講義9科目と実験2科目）が開講されました。平成15年度からは4年相当科目（講義8科目）も行なわれましたが、こちらは夏休みではなく、夏学期平日の6限（18:30～20:

00)と土曜日を利用して開講されました。夏休みや夜間、或いは、土曜日という授業スケジュールにも拘らず、多くの学生が熱心に参加し、3年相当科目は平均して30～40名、4年相当科目は20～30名の受講がありました。

3年相当科目の実験2科目と講義7科目、そして、4年相当科目の講義5科目において試験に合格し単位を修得した者には修了証が授与されることになっており、2年間の課程が終わった平成15年度が、記念すべき第一期修了生誕生の年となりました。第一期生は、理学部生19名と情報理工学系研究科大学院生1名の合計20名でした。理学部生19名の内訳は、物理学科2名、地球惑星物理学科1名、生物化学科16名でした。生物化学科の学生が多いのは代替認定科目が多いことに因るものと考えられましたので、この

度、理学部規則を改正し、平成16年度からはより多くの学生に代替科目を認めることにしました。これにより、ある程度の単位を修得しているものの、必ずしも修了要件を満たしていない多くの学生にも修了証が授与できるものと期待されます。

第一期生への修了証授与式は、平成16年3月26日(金)午後、理学部1号館207号室において、岡村定矩理学系研究科長・理学部長とプログラム実施委員長である高木利久新領域創成科学研究科教授を初めとする本プログラム教官が出席して行なわれ、岡村理学部長から修了生一人一人に修了証が授与されました。殆どの学生が理学系研究科を主とした本学大学院修士課程に進学し、これからやっと研究者への道程を歩み始める訳ですが、本プログラムにおいて学修したこ

とが将来に繋がり、必ずや生物情報科学・バイオインフォマティクスの牽引役となってくれるものと確信します。

本プログラムは理学部生を中心とした教育課程ですが、他学部生や大学院生、或いは、社会人にも門戸を開いており、今後、もより多くの、そして、様々なバックグラウンドの人々が本プログラムに参加し、生物情報科学・バイオインフォマティクスの人材として育ってくれることを祈念しています。尚、シラバスや過去の講義内容、或いは、履修などに関する情報は本プログラムのホームページ(<http://www.bi.s.u-tokyo.ac.jp>)をご覧ください。

